

地域住民から子どもたちへ伝統文化を継承
あかさき三世代交流十五夜大会



▲縄練りをする参加者

10月3日、有明町の赤崎グラウンドで「第10回あかさき三世代交流十五夜大会」が開かれ、地域住民など約300人が参加しました。赤崎地区振興会が、三世代の交流や伝統文化を継承しようと毎年開催しているもの。子どもたちは地域住民と協力しながら縄練りを行い、約40mの立派な綱を完成。綱引きや相撲大会が行われたほか、ステージイベントや花火も打ち上げられ、会場はたいへん盛り上がり上がっていました。

明るく活力あるまちづくりのために
倉岳町民体育祭



▲大縄とびをする参加者

10月11日、町内15地区の対抗による「第45回倉岳町民体育祭」が倉岳総合グラウンドで開かれ、1,422人が参加しました。倉岳まちづくり協議会が、明るく活力あるまちづくりのために毎年開催しているもの。小学生からおとなまでの各年代が参加する大縄とびや総力リレーなどが行われ、多くの声援が飛び交ったほか、倉岳音頭の輪踊りも実施され、参加者は笑顔で親睦を深めていました。

収穫の秋を満喫
小宮地保育所芋掘り体験



▲大きい芋がとれたよ！

小宮地保育所の園児29人が10月8日、新和町小宮地の畑で「芋掘り体験」を行いました。園児たちに芋掘りを楽しんでもらおうと地域住民のご好意で、畑を開放していただき行われたもの。園児たちは泥だらけになりながら、コンテナ4箱ほどの芋を収穫しました。芋を手にした子どもたちは、「大きい芋がとれたよ」「いっぱいついてる」と大喜びのようすで“収穫の秋”を満喫していました。

音楽・芸術・食の祭典
天草西海岸SCHOOL ART FESTIVAL



▲ライブのようす

10月3・4日、音楽・芸術・食の祭典「天草西海岸SCHOOL ART FESTIVAL」が天草町の旧下田南小学校で開かれ、地域住民など約600人が来場しました。下田南地区振興会主催で、マイク真木や東田トモヒロ、YUKALICIOUSなどのプロのミュージシャンによるライブを実施。来場者は、美しい演奏に聞き入っていました。このほか、牛深ハイヤ保存会によるハイヤ踊りの披露や体験、郷土料理の販売なども行われました。

日本で2番目に大きな大型客船の寄港を歓迎

「ぱしふいっくびいなす」が牛深港沖に寄港。全長183.4m、幅25m、総重量2万6,594トンの日本で2番めに大きな大型客船「ぱしふいっくびいなす」（日本クルーズ客船株：大阪市）が10月8日、乗客約400人を乗せて牛深港に寄港しました。神戸港を出港し小浜港や長崎港（いずれも長崎県）に立ち寄り、天草を周遊する5泊6日のクルーズで、同客船の寄港は3年ぶり。

乗客は小型船で上陸後、世界遺産登録を目指す崎津教会の見学やイルカウォッチングなどを行ったほか、船内では（一社）天草宝島観光協会による歓迎セレモニーや牛深ハイヤ保存会によるハイヤ踊りの披露・講習会が行われ、楽しいひとときを過ごしていました。

その後、客船は大漁旗をつけた漁船15隻による海上船団パレードで見送られ、神戸に向けて出港しました。



▲牛深港に寄港した「ぱしふいっくびいなす」



▲船内でハイヤ踊りを楽しむ乗客

勇壮な太鼓踊りをご覧ください！
栖本太鼓踊り猛練習中



▲猛練習に励む団員の皆さん

11月8日の栖本諏訪神社例大祭での「栖本太鼓踊り」の披露に向け、栖本町青年団（松本浩太郎団長・団員23人）は9月から同地区コミュニティセンターで、平日の夜2時間の練習に励んでいます。県重要無形民俗文化財に指定されているこの踊りは江戸時代に始まったと言われ、現在は同青年団で継承。松本団長は「団員一丸でがんばります。ぜひご覧ください」と意気込みを話していました。

読書の楽しさと本の良さを知ろう！
市読書フェスティバル



▲絵本の読み聞かせをする堤さん

10月17日、「市読書フェスティバル」が天草市民センター展示ホールで開かれ、135人が来場しました。市立図書館が、読書の楽しさと本の良さを知ってもらおうと毎年実施しているもの。元文化放送アナウンサーの堤江実さんによる「言葉で育つ子どもたちの魂」と題した講話や、自身が著作した絵本の読み聞かせなどを実施。「子どもの目を見て、ゆっくり話すことが大切です」と話されるなど、来場者は熱心に聞き入っていました。